

【当院診療部 リハビリテーション科理学療法士 本間傑 国際学会発表報告】

当院理学療法士 本間傑が、12月6日から8日にドイツ、ベルリンにて開催された国際学会で研究発表をしましたので、ご報告いたします。

はじめまして、2019年5月から当院に配属となった理学療法士の本間と申します。今回、12th international SCWD conference on cachexia, sarcopenia and muscle wasting で研究成果を発表してまいりました。

SCWD (Society on Sarcopenia, Cachexia and Wasting Disorders: サルコペニア・悪液質・消耗性疾患学会)は、がんや慢性疾患、加齢によって生じる筋肉量の減少、悪液質の病態解明や克服を目的とした国際学会です。

昨今、超高齢化に伴い心不全患者が爆発的に増えるといわれております。心不全は再発や再入院を繰り返すことが特徴で、本人のみならず家族への負担が増加します。このような高齢心不全患者様がどのような方法で元気に過ごすことができるか、平均寿命と健康寿命の乖離を少なくできるかが健康寿命の延伸に重要です。そこで、健康寿命に直結する日常生活動作能力に着目し、今回の国際発表では、日常生活動作能力と筋肉量と筋機能の関連を発表してまいりました。本研究は、日常生活動作能力の向上には筋機能への介入がより大切であることを示唆しており、健康寿命の延伸を目的とした運動プログラムの介入やケアプランの作成に役立つと考えられました。



私は、今まで英語の抄録作成、英語プレゼンは未経験であるため、当日を迎えるまでは不安に押し潰されそうでしたが、前職の札幌医科大学の先生方のきめ細やかなご指導のおかげで無事発表することができました。発表後は、本場の美味しいドイツビールで最高の祝杯をあげることができました。また、国際発表に至るまでの過程や発表の経験は私の人生において代え難い貴重な経験となりました。

国際発表にあたり、当院リハビリスタッフおよびご指導いただいた先生方、そして、支えてくれた家族にただただ感謝に堪えません。この経験を日々の臨床や教育、研究に活かし、ますます研鑽を深めていきます。

患者様の人生を支援できるような関わりを今後とも追求し、患者様だけでなく、家族の皆様が満足できるように今後とも尽力いたします。

